

環境プランニング学会 第1回シンポジウム

サステナブル社会における 環境プランナーの役割

去る4月1日、(社)日本記者クラブ 日本プレスセンタービルにおいて、環境プランニング学会第1回のシンポジウムが開催された。企業の環境関連担当者をもっとも知りたいと思っていることばかりを集めたもので、本学会員を中心に約70名が参加。会場は熱気に包まれた。

講演概要

「企業評価と社会システムの転換—— 環境マーケティング分科会の役割」

西田 政彦

特定非営利活動法人 環境アリーナ研究機構理事
(環境プランニング学会 環境マーケティング分科会委員長)

サステナブルな社会を目指すなかで、「環境」が企業に対する新たな評価基準になりつつある。また、ITの発達によりパラダイムシフトも進んでいる。そういった現状のもと、Webネットワークをベースに大学の知を活用し、企業を原動力とした消費者・学会・企業の三者を融合する「環境マーケティング」の推進が必要である。

(詳細は76ページをご参照ください)

「社会貢献投資(SRI)の役割」

上田 武 株式会社エンジェルキャピタル 代表取締役

井上 壽枝 株式会社中央青山PwCサステナビリティ研究所 副社長

財務だけでなく、環境・倫理など企業の社会的評価に基づいて投資する、社会責任投資(SRI)への関心がわが国でも高まり始めている。企業の社会的評価を考慮するSRIについての現状と、欧米とは異なる文化をもつ日本における、SRIのあるべき姿に対する提言がなされた。

「セイコーエプソンの環境問題への取り組み」

橋爪 伸夫

セイコーエプソン株式会社 取締役 地球環境・安全推進室長

環境問題への先駆的な取り組みをしているセイコーエプソンによる、具体的な環境保全施策の紹介。同社は環境会計への第三者検証を受けて環境報告書で公表しているが、第三者検証を受けた企業(製造業)としての立場から提言がおこなわれた。

「企業に求められるステークホルダーとの エコ・リレーションシップ・マネジメント ——環境格付けとNTTデータ経営研究所の取り組み」

萩原 一平

株式会社NTTデータ経営研究所 理事・i-community戦略センター長

近年、環境問題にかかわるさまざまなステークホルダー——地域住民、消費者、従業員、取引先、金融機関、投資家、一般大衆等々——との環境リレーションが重要になってきているが、各ステークホルダーが企業に求めるものは多様である。それぞれに対してどのような関係をとっていくか、マネジメントの重要性が示された。

「排出量取引について」

吉田 麻友美

株式会社中央青山PwCサステナビリティ研究所 GHG事業部 主任研究員

京都議定書の第1約束期間開始の2008年が迫っている。日本では温室効果ガス排出量6%削減の義務を守るため、遅くとも2005年には何らかの規制の導入が考えられており、排出量取引の活動が活発化すると思われる。そういった現状と今後の見通しについて紹介された。

「企業経営に役立つ環境管理会計」

海野 みづえ

株式会社創コンサルティング代表取締役
(環境プランニング学会 会計分科会委員)

環境保全活動と企業経営を結ぶ重要なツール「環境会計」が日本企業にも普及してきた。とくに企業経営に役立つ環境会計は「環境管理会計」と呼ばれ、実務的な経営支援となる。今回は、環境管理会計の各種のツールの紹介と、企業経営での活用方法について解説。

※講演内容の詳細は、今号より順を追って掲載していく予定です。